

赤松林太郎 イレーネ・ルツソ ピアノリサイタル

～ ドナウを越えて ― 七十年と二十六年の継承 ～

ドナウのほとり、ブダペストから始まった音楽の系譜。

1956年、同じ舞台上立ったラザール・ベルマンとフランス・クリダ。その芸術は、それぞれの弟子へと受け継がれてきました。

そして今、その流れを継ぐ赤松林太郎氏とイレーネ・ルツソ氏が再び出会います。

二人を結ぶのは、コンクールでの出会いから二十六年、

そしてその源にある七十年の歴史です。

本公演では、時代と国を越えた音楽の対話をお届けします。

横浜みなとみらいの地で響く、

継承と再会のひとときを、どうぞお楽しみください。

Program

ドビュッシー：小組曲

シューベルト：幻想曲 ヘ短調 D 940 他

※曲目は当日に変更の可能性があります。

2026.9.10 THU

第一回目 開演 11:15 (開場 11:00) 終演予定 12:15

第二回目 開演 19:00 (開場 18:45) 終演予定 20:00

会場 ヤマハミュージック 横浜みなとみらい 3F サロン

料金 3,000円 (税込)

定員 各回30名 全席自由 ※未就学児の入場はご遠慮願います。

■ お問い合わせ

株式会社ヤマハミュージックジャパン

鍵盤事業戦略部・ピアノ事業企画課

TEL. 050-3147-2077

受付時間：月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日、弊社指定休日を除く)

<https://retailing.jp.yamaha.com/shop/yokohama-minatomirai>

ヤマハミュージック 横浜みなとみらい

チケットお申し込み

イープラス <https://eplus.jp/> (下記二次元コード)

第一回目
開演 11:15



第二回目
開演 19:00



イープラス チケット購入期間：9/9(水) 18:00まで ※当日のチケット販売はございません。



赤松林太郎

世界的音楽評論家ヨアヒム・カイザーに「聡明かつ才能がある」(ドイツ国営第2テレビ)と評された2000年のクララ・シューマン国際ピアノコンクール第3位受賞がきっかけとなり、本格的にピアニストとして活動を始める。2歳よりピアノとヴァイオリンを、6歳よりチェロを始める。幼少より活動を始め、5歳の時に小曾根実氏や芥川也寸志氏の進行でテレビ出演。10歳の時に自作カデンツァでモーツァルトの協奏曲第21番を演奏。1990年全日本学生音楽コンクールで優勝。神戸大学を卒業後、パリ・エコール・ノルマル音楽院にてピアノ・室内楽共に高等演奏家課程ディプロムを審査員満場一致で取得(室内楽は全審査員満点による)、国際コンクールでの受賞は10以上に及ぶ。ピアノを元吉明子、熊谷玲子、ミハイル・ヴォスクレセンスキー、フランス・クリダ、ジャン・ミコー、ジョルジュ・ナードル、ゾルターン・コチシュ、室内楽をニーナ・パタルチェツ、クリスチャン・イヴァルティの各氏に師事。国内各地の主要ホールはもとより、アメリカ、ロシア、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、オーストリア、ハンガリー、ポーランド、韓国、台湾、ベトナム、コロンビアを公演で回る一方で、ヨーロッパやアジア各国で音楽祭や国際コンクール、マスタークラスに多数招かれている。これまでにマルク・アンドレーエ、デアーク・アンドラーシュ、ミロスワフ・ブワシュチック、タラス・テムチシン、クリスティアン・シュルツ、新田ユリ、手塚幸紀、堤俊作、西本智実、山下一史などの指揮のもと、デュッセルドルフ交響楽団、ドナウ交響楽団、シレジア・フィルハーモニー管弦楽団、東京交響楽団、ロイヤルメトロポリタンオーケストラ、ロイヤルチェンバーオーケストラ等と共演。キングインターナショナルから《ふたりのドメニコ》《ピアソラの天使》《そして鐘は鳴る》《インヴェンションへのオマージュ》《ブルクミュラー25&18の練習曲》《わたしを泣かせてください》《クララに捧ぐ》

《シンフォニア 共に響かせるもの》をリリースし、その多くがレコード芸術の特選盤・準特選盤、推薦盤に選ばれる。新聞や雑誌への執筆も多く、著書に『赤松林太郎 虹のように』(道徳書院)、『3年後、確実にクラシック・ピアノが弾ける練習法ショパン編』『3年後、確実にクラシック・ピアノが弾ける練習法ベートーヴェン編』(リットーミュージック)、『徹底解説バッハ〈インヴェンション&シンフォニア〉弾き方教え方』(音楽之友社)等がある。現職は大阪音楽大学・大学院教授、洗足学園音楽大学客員教授、宇都宮短期大学客員教授、平成音楽大学客員教授、Budapest International Piano Masterclass & Festival芸術監督、カシオ計算機株式会社アンバサダー。毎年夏はイタリアのTalent Music Summer Courses、ポーランドのEuro Arts Academyでマスタークラスを担当。2025年はVietnam International Piano Competition & Festivalにてコンサート・マスタークラス・コンクールの審査を務め、日韓国交正常化60周年記念イベントとして6月にソウル教育大学、9月にセジョン大学でマスタークラスに招かれた。2026年にはClassic Koreaのマスタークラス(韓国・ソウル)、Crescendo International Music Festival & Competition(ベトナム・ハノイ)、Harmonia International Concerto Music Festival(中国・無錫)にも招聘が決まっている。



イレーネ・ルツソ Irene Russo

イタリア出身のピアニスト、イレーネ・ルツソは、マルタ・アルゲリッチから「これまで聴いた中で最も優れた若手音楽家の一人」と評され、その世代を代表する逸材として国際舞台に登場した。イモラ国際ピアノアカデミーにてフランコ・スカラおよび伝説的指導者ラザール・ベルマンに師事し、さらにバルセロナでアリシア・デ・ラローチャに師事した。教育学の学士号、生命倫理学および音楽認知理論・実践の修士号を有する。数多くの国際ピアノコンクールにおいて受賞しており、2000年デュッセルドルフ「クララ・シューマン国際ピアノコンクール」、2002年ミュンヘン「ARDミュンヘン国際音楽コンクール」、2003年ブエノスアイレス「マルタ・アルゲリッチ国際ピアノコンクール」などが挙げられる。ラ・ロック・ダンテロン音楽祭、ハイデルベルク音楽祭、シュロス・エルマウ音楽祭、ムジカ・ヴィーヴァ、ベートーヴェン音楽祭をはじめ、数多くの現代音楽祭など、国際的な音楽祭に多数出演している。Oehms Classics、Wergo、Edipan、Brilliant Classicsより数多くの録音をリリースしており、その中には『グラモフォン』誌の「今月のCD」をはじめとする数々の権威ある賞、優れた批評を受けたものも含まれる。これらの録音は、BR、WDR、SWR、BBCラジオ3、RAIラジオ3、オランダ・ラジオ4、ベルギー・ラジオ3、フランス・ミュージックなど、主要な国際放送局で定期的に放送されている。ソリストおよびオーケストラとの共演者として、アムステルダム・コンサートヘボウ、ブリュッセル・ボザール、ナポリ・サン・カルロ劇場、バレンシア音楽宮殿、ベルリン・コンツェルトハウス、ミュンヘン・ガスタイクをはじめ、ニューヨーク、ヒューストン、クリーブランド、サンフランシスコ、シドニーなど世界各地の主要な音楽センターに出演している。ベートーヴェンの全5曲のピアノ協奏曲、ブラームスの両協奏曲を含め、約30曲の協奏曲をオーケストラと共演してきた。客演ソリストとして共演したオーケストラには、オランダ・フィルハーモニー管弦楽団、ペイ・ド・ラ・ロワール国立管弦楽団、デュッセルドルフ交響楽団、フランダース・フィルハーモニー管弦楽団、ミュンヘン室内管弦楽団、キーウ国立交響楽団、マントヴァ室内管弦楽団、クラシッシェ・フィルハーモニー、サン・カルロ劇場管弦楽団、ヒューストン・オーケストラX、ロイヤル・バンコク交響楽団、チューリングゲン・フィルハーモニー、クライオヴァ交響楽団などがあり、指揮者ジョン・アクセルロッド、ウンベルト・ベネデッティ・ミケランジェリ、スザンナ・マルッキ、デイヴィッド・スターン、ヴォロディミール・シレンコ、ファビオ・マストランジェロ、アレクサンダー・リープライヒ、マルク・アンドレーエ、ミーシャ・ダメフ、オヴィディウ・バラン、ミシェル・ティルキンらと共演している。2013年よりトレヴィーゾ市国際ピアノコンクールの会長を務め、2016年から2024年まではアムステルダムのアルシベル財団の芸術監督を務めた。高い評価を受ける指導者として、ベルギー・アントワープおよびルーヴェンの王立音楽院でピアノ科教授を務めた経歴を持つ。現在はカールスルーエ音楽大学、ウィーン音楽・パフォーミングアーツ大学(MUK)、ジュネーヴ高等音楽院、ヘルシンキ・メトロポリタ応用科学大学など、国際的に定期的にマスタークラスの招聘を受けており、現在はイタリア・サレルノ国立音楽院のピアノ科教授を務めている。



www.irenerusso.com